

学校現場における心理臨床的関わりについての実践的研究 — 新しい学びと育ちの場・洛風中学校でのとりくみを通じて —

1. 研究の目的

洛風中学校は「学び」と「育ち」の場として不登校の生徒のために創られた新しい形態の学校である。本研究において、研究参加者は実際に洛風中学校に赴き、現場教師と合同の事例検討会やディスカッションを行う。生徒や学校への理解を深めながら、心理臨床的、および教育的、発達の視点を併せ持った関わりについて考えていく実践的な活動を中心とする。さらに、洛風中学校に先駆けて設立された不登校生のための公立学校や特別な思いの下に設立された子どもの自立を支援する、あるいは自由や自己決定を教育目標とする学校を訪問することで、学校という場で、心理臨床に何が求められ、何が出来るのかを考えていきたい。

2. 研究の概要

【活動概要】

当初、洛風中学校での事例検討会は、2005年度に臨床実践指導学講座（臨床教育学博士後期課程）に所属する院生の授業科目として開設された。2年間の実践交流を終え、本年度は教育学研究科の学校臨床研究会を母体として、中学校教員が提供する事例検討会だけでなく、洛風中学校設立の経緯及び目的、これまでの取り組みなどの基本的理解を深めるために教員との交流の場を持つ。同時に、研究目的達成のために、洛風同様、特別な意図に基づき創設された学校を訪問する。

【活動状況】

2007年10月 洛風中学校訪問

事例検討会・見学・交流および研究のための打ち合わせ

2007年12月 洛風中学校訪問

基本的理解を深めるための教員との交流

2008年1月

黄柳野高等学校（愛知県）訪問

学校見学・教員、SC、生徒との交流

きのくに子どもの村学園（和歌山県）訪問

学校見学・活動参加、交流

八王子市立高尾山学園（東京都）訪問

学校見学・授業参観・教員、SCとの交流

【訪問校の概要と印象】

*洛風中学

国から認可を受けた「京都市不登校生徒学習特区」事業として開設された不登校生徒のための自立と学習支援を目的とした公立の中学校であり、教員とスクールカウンセラーが連携し、より良い学校のあり方を求め、柔軟に変化している印象。

*黄柳野高等学校

現職の高等学校教員であった3名が理想の学校を目指し、5年間の準備期間を経て設立した全寮制の学校。在籍する生徒の大半は不登校経験者であり、教員は「人に傷つけられた人は人でしか癒されない」という信念の下、子どもの人権を尊重しながら、自立に向けて支援している。熱意を持った教員の存在と心理面での援助の充実が特に印象的。

*きのくに子どもの村学園

イギリスのニールが設立したサマーヒルのような自由な学校を日本にもという趣旨で設立された。感情、知性、人間関係のいずれにおいても自由で、自己決定できる子どもを育てることを目標とする。学校には、先生と呼ばれる者は存在せず、恵まれた自然と地域環境の中、信頼関係で結ばれた大人と共に子供達は生き生きと活動している印象。

*高尾山学園

全国で初めて公立小中学校で、不登校児童・生徒を対象として設立された。教員以外のスタッフとして、スクールカウンセラー、指導補助員、教育相談員が心の安定を支え、特殊な技能保持者など様々な人たちからも指導を受けるなど人との関わりに重点を置いている印象。



【成果】

洛風中学校訪問では、桑原教授、矢野教授、皆藤準教授参加の下、事例検討会を持ち、事例を通じて洛風中学校の教育目標や日々の実践、課題に触れることが出来た。また、特別な意図の基に設立された学校訪問では、教員と心理職のそれぞれの専門性を行かした取り組みと連携、子どもへの熱い思いを知り、改めて学校の存在意味と心理職のあり方を考えさせられた。

【構成員】

研究代表者：井上明美 臨床実践指導学講座 D 1

研究分担者：畑中千紘 臨床心理実践学講座 D 3

布柴靖枝 臨床実践指導学講座 D 1

小西佳世 心理臨床学講座 M 1

研究協力者：学校臨床研究会メンバー

（文責：井上 明美）